

「内と外が伴うクリスチャン」

～重荷を主に 感謝の土台に！！～

ヘブル12：1-7, 11

前回は、外見ではなく内側の心がきれいかどうかについて語りましたが、あなたは先週どれだけの人を憎み、心で殺したり諦めたり、自分を否定したりしてきたでしょうか？また反対に、どれだけ神様の愛にたっけきれいな心で生きたのでしょうか？内側はあなたと神様にしか分からない部分ですが、私たちはこの内側をなかなかきれいに保つことができません。そのうえ今回は内と外が一緒になれというメッセージです。私たちは暗闇のあった冬の時期から神様に出会って春の時期となり信仰生活に入りました。その中にあって次にくる夏の時期は、実を結ぶために必要ですがそこを通るのは辛く苦しいことがあります。しかし私たちは人生の中で小さな目先のこと、ひとつの側面からだけでなく、総合的に物事を見ていく必要があります。では、自分自身はどうでしょうか？悪魔の誘惑に乗って罪を犯した人から生まれた私には初めから悪の心があり、良いことをできないように思えます。しかし聖書には、志を立てたことを実現でき、良い行いをあらかじめ備えてくださっていると真逆とも思えることが書かれています。こんな矛盾の中にある私たちの人生をどうやって内と外を伴うようにしていったらよいのでしょうか。この答えを導き出すには、自分が今どういう状況かを一時の感情の高ぶりや落ち込みから判断するのではなく、総合的に判断していくことが大事です。もし私たちが人と出会う時、イエス様の愛の姿が出ていれば、周りの人はあなたを通して必ず変えられていくはずですが。しかしもしそうでないなら、私たちは考えなければいけません。特に注意しなければいけないことはイエス様から目が離れていないかどうかです。これは危険な行為です。一般的にいわれる宗教の中でキリスト教は愛を説く宗教です。しかし世の中にはクリスチャンがなぜ？ということがたくさん起こります。それは唯一神という思想が排他を生んでいることが多々あります。そこにはイエス様が本当に従えたかたの剣によって人を滅ぼすものは剣によって滅びる愛から離れてしまい、自分たちがなにが正しいのかが分からなくなっているクリスチャンが多くいることを示しています。イエス様が見えなくなる、これは私たちが長く信仰生活を送っていると気付かない間になっていることが多いです。それは愛というのが私たちにはずすく難しいものでともすれば偽善者となってしまうからです。もし今、もういいやと諦め、排他的になっている自分があるならば、その原因を探しましょう。本当の愛は拒まれても決して諦めないものです。聖書で最大の罪は愛の反対である無関心です。今日は私たちがイエス様の愛に真実に生きるにはどうしたらいいかを、重荷についてやキリストがなぜ十字架にかかられたかを知る中で学んでいきましょう。

■ 私たちが本当の姿で生きるために必要なこと

今日は母の日です。母の日は心から慕った母を亡くしたある女性が、亡き母へ感謝を込めて白いカーネーションを礼拝で捧げたことがきっかけといわれています。日本では母の日に赤いカーネーションを母にプレゼントして感謝の気持ちを伝えることが主流になっていますが、できることなら日々感謝を表していきたいものです。それは神様に対してもいえることです。そのために私たちはどう生きたらいいのでしょうか。それは重荷を下ろすことです。教会に通う人のなかには、教会で正しく生きていることが私の人生の重荷だと思っている人がたくさんいます。しかし重荷とはアダムとイブが背負った罪の心であり、1 自分に対する劣等感（自分を愛せなくなる罪）2 劣等感から来る比較 3 自己防衛（自分で自分を守る罪）から成ります。この重荷を多くの人が背負っています。これが自分を守るためになにかを犠牲にしていき、小さな争いから大きな戦争までを引き起こしてしまうのです。私たちがクリスチャンとして生きるためにイエス様の十字架を見上げましょう。ガラ 3：13 と申 21：18-23 から、なぜイエス様は石打ちにして木をつるすというユダヤ教の死刑の方法ではなく、十字架刑というローマ帝国の死刑の方法をとられたのか、そしてここまで残酷なことを神様が言ったのはなぜかを受け取りましょう。当時ユダヤ教の死刑は殉教者それはただ父の愛です。父母には責任があります。愛するひとり子を十字架にかけてでも私たちが罪から立ち返り正しく歩めるようにしたかったのです。神様が私たちを愛し素晴らしい存在に作られました。そして人に自由意志を与えてくださいました。劣等感や比較、自己防衛という重荷があると、自分を制する力が揺るがされ、悪魔はここから誘惑し、罪を犯させようとします。ヨブは家族が罪を犯すのではなにかといつも家族のためにまだしてもいない罪のいけにえを捧げていました。ですからこのことを告発した悪魔に対し、神様はヨブのいちは触れさせなかったけれど、彼を悪魔の手に任せることを赦さざるを得なかったのです。自分は正しくやっても、我が子が正しく生きられるとは限らない、そんな思いを悪魔に誘惑されたのです。そこには重荷がありました。どうせ自分がしたって・・・そんな思いも重荷を背負っている証拠です。重荷があると私たちは正しい判断をすることができなくなってしまいます。ですから私たちはそこに向き合い、次のことを行っていく必要があります。

■ ①重荷を下ろして生きる

イエス様はあなたの重荷を背負うために十字架につけられました。彼は人々だけでなく父なる神様からも見放されました。しかしそこには、見せしめとなってでも何人かでも正しく生きられるようにするための大きな愛がそこにあります。私たちはどうせなら楽をしたいですし、他人のために苦労したくないです。そして頑張ったことを評価して欲しいと思っています。褒められないと自分の存在を否定してしまうこともあります。私たちは重荷を持ったままでは歩けないのに、背負ったままでも走りきったことを評価されたいと思ってしまうんです。ですが、今あなたが背負っている重荷は誰のものでしょうか。本当に背負うべきものはなんなのでしょうか。私たちが背負うべき重荷は自分が救われる前に負っていたものではありません。今、神様があなたに背負うように言っているのは隣人の重荷であって、これを一時的に背負って神様のもとに持ってきなさいといわれています。あなたの重荷はすでに神様が取ってくださっているのですから、騙されてはいけません。悪魔は自分の下ろした重荷を再び背負わそうとさせます。日々のがっかり辛いと思う出来事があったら要注意です。ですがそのときはチャンスでもあります。それはそのような状況に遭ったとき、私たちは自分を見つめ考えることをすることができるからです。神様は当然ながら私たちが良い状態のときに変わってほしいと願っておられます。しかし、試練に遭うことで本当のあなたに戻れるなら試練をも赦されるお方です。ですから私たちはそのような時しっかりと考え、乗り越えたと変わること信じ、心を頑なにしないようにしましょう。あなたに出会う＝イエス様に出会うという愛に満ちた生き方、真実な生き方ができるように一緒に過ごしていきたいです。

■ ②感謝の土台に生きる！！

私たちが日々自分と向き合いイエス様のために頑張るのはなぜでしょう。それは、責任からではなく、シンプルにイエス様に出会って人生を変えられたからという感謝の心からではないでしょうか。もしあなたが教会に来ていなかったら今のあなたはどんなだったでしょう。あなたがここまで変わったのだからあなたの重荷を下ろし、誰かのためにあなたと同じように悩みを持っている人を救うために一時的に重荷を背負って神様のところにもっていく愛に生きましょう。確かに救われてからも試練に遭うこともあったでしょう。しかしそれはあなたが神様の子どもであり私生児でない証拠です。そしてその時だけをみればただの試練だったものも、全体を見て振り返ったときそこを通った意味を見出すことができます。ですから今試練に遭っているなら、それを乗り越えたあなたがどれだけ素晴らしく、神様がつくられた本当の自分に戻れるのかを期待し、感謝の土台に生きましょう。

■ ③自分を保つ！！あなたを大切に

自分を大切にすることは過保護にするのではなく、生活面や感情面など自分を制御し自分の感情を保つことです。先週自分を制せなかったことがいくつありましたか？重荷を負ってはい自分を制することはできませんし、それはイエス様の十字架を無する行為です。神様の犠牲を重荷を負っているがゆえに、自己防衛のために生きるのでしょうか。私たちが罪を贖われ、決断できる恵みをいただきました。だからもう比較をしない決断し、自分を制御する決断をしていきましょう。

祈りましょう

愛する神様、私はクリスチャンです。イエス様のようになる者です。この生涯を通してあなたの姿に近づきます。どこを切ってもイエス様が現れるような本当のクリスチャンになります。クリスチャンとして正しい言葉を語り、愛を流し、名実共にクリスチャンとして生きられるように、今日つくり変えてください。重荷を捨てます。もう二度と背負いません。私たちを正しい道へと導いてくださる神様、感謝いたします。今日つくり変えられました。新しくなりました。教会が手をとってこの日本がつくり変えられています。私たちを用いてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン。

(要約者:平澤 瞳)

(5月8日)